

提出締切：2010年5月20日（木）

2009年度採択 研究推進プログラム「基盤研究」 研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名： 文学部・教授 氏名： 佐々 充昭
研究課題	中国「東北工程」をめぐる韓中間の歴史認識摩擦に関する研究

I. 研究計画の概要

研究の計画について、概要を記入ください。

本研究の目的は、近年、中国と韓国の間で政治的・文化的な摩擦にまで発展した「東北工程」をめぐる歴史認識問題の詳細について明らかにする点にある。中国では、2002年2月から2007年1月までの五カ年にわたって、社会科学院の中国边疆史地研究センターを中心に「東北边疆歴史与現状系列研究工程」（以下「東北工程」と略称）という大規模な研究プロジェクトを推進した。このプロジェクトは、主に中国東北地方の歴史に関する学術研究を目的とするものであった。しかし、その内容は、中国政府が掲げる「統一的多民族国家論」の立場から、東北地方で勃興したすべての部族・民族の歴史を中国内の一地方政権の歴史として中国史に編入しようとするものであった。

これに対して韓国では、特に中国側が高句麗の歴史を一方的に中国史に編入しようとしていることを問題視し、「東北工程」に対する大々的な反対運動が展開された。本研究では、東北アジア地域の複雑な政治情勢を背景にして展開された、「東北工程」をめぐる韓中間の歴史認識問題の詳細について、中国側が推進した「東北工程」に関する概要と、「東北工程」に対する韓国側の反応の二つの観点から明らかにする。

II. 研究成果の概要

研究成果について、概要を記入ください。

中国が推進した「東北工程」は、古代中国疆域に対する研究、東北地方史及び民族史研究、古朝鮮・高句麗・渤海の歴史研究、中朝関係史研究、朝鮮半島情勢及びそれに伴う中国東北边疆の安定化戦略に対する研究などから構成されている。また、「東北工程」の内容は、それに先だって行われた「夏商周断代工程」「中華文明探源工程」など「中華民族」創成のための愛国主義にもとづく研究プロジェクトを継承したものであった。そのために、「東北工程」では、高句麗を「中国边境少数民族の地方政権」に縮小し、高句麗の歴史は朝鮮史ではなくすべて中国史に属するものとするなど、中国ナショナリズムの要素を色濃く投影したものとなっている。これに対して、韓国側では、「東北工程」を中国による国策的な歴史歪曲行為であるとして、全国民挙げての一大反対運動が巻き起こった。その反対運動は主に、学術研究者たちを中心とする歴史学界、民族主義的な性格を持つ民間の市民団体、テレビ局や新聞社などのマス・メディアを通じて展開された。本研究では特に、2006年から2008年にかけて韓国で放映された高句麗関連のテレビドラマが、中国の「東北工程」に対抗するために制作されたものであることに着目し、これら韓国高句麗ドラマの中に文化ナショナリズムの要素がどのように盛り込まれているのか分析した。その研究成果の一部を、佐々充昭『韓流』高句麗ドラマに甦る大朝鮮主義史観 - ドラマ『太王四神記』を中心に -」（木村一信・崔在喆編『韓流百年の日本語文学』人文書院、2009年）として発表した。